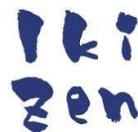


# 新型コロナウイルス感染症対策についての 効果検証報告書

令和3年2月24日



TSP太陽株式会社

# (1) 事前周知など

## ■来場者への周知（事前告知チラシ）

イベントの告知媒体としてA3 2つ折りのパンフレットを作成し、中面下部に来場者への感染防止啓発を記載した。記載したのは「入場時検温」「マスク着用・持参」「適宜消毒・手洗い」「グループごとのソーシャルディスタンス」「ステージ観覧時のソーシャルディスタンス」「会場内の入場制限人数」「COCOAインストール」についての7項目。

表面



裏面



<p><b>新型コロナウイルスの感染防止対策について</b></p> <p>入場ゲートにて体温確認を実施します。発熱や体調不良が認められる方のご入場は断ります。</p>	<p>みちのくまると収穫祭in仙台会場内では、常時マスクの着用が必要です。ご来場にあたってはマスクのご持参をお願いします。</p>	<p>会場内では、少数グループ(家族等)ごとに間隔を確保するようご協力をお願いいたします。入場時や商品購入時など、お並びいただく際には充分間隔をとってください。</p>	<p>会場内は混雑時、滞留人数750人を目安として入場制限を行う場合がございます。あらかじめご了承ください。</p>
<p>会場内には、消毒・手洗いコーナーを設置しております。適宜会場内での消毒・手洗いをお願いします。</p>	<p>ステージの観覧用に座席をご用意しております。ご利用の際はグループごとにお並びいただき、他グループの方は席を空けていただきますようお願いいたします。</p>	<p>ご来場の際はあらかじめ、新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」のインストールにご協力ください。</p>	

## ■次回、開催するとしたら改善することが望ましい事項

紙面レイアウトの都合上、今回は中面への記載となってしまった。新型コロナウイルス感染防止対策の観点から鑑みると、表面1P使用するなど、大きく取り扱うことで視認性を高める工夫が必要だと考える。

# (1) 事前周知など

## ■ 出店者・協賛者・出演者への周知

出展者・出演者募集に際して、募集要項を作成・送付した。  
通常のイベント同様、イベントの概要・搬入条件・注意事項のほかに、  
新型コロナウイルス対策についての注意喚起やお願いを2ページに渡り記載した。  
開催直前に事前案内資料も改めて作成・送付を実施し、コロナ対策についての記載をした。



## ■ 今後の課題

新型コロナウイルス感染防止対策について、事前に周知すべき項目が非常に多く、どうしても文字情報が多くなってしまい、視認性が悪くなる。とはいえ、関係者へ周知徹底しなければならない項目でもあるため、簡略化することが難しい。  
出展者・出演者の感染防止対策への意識向上のためにも、表現方法の検討が必要である。

## ■ 次回、開催するとしたら改善することが望ましい事項

事前告知チラシの様にアイコンなどを活用し、ひと目で感覚的に伝わる手法での資料作成が必要。  
主催者は、感染防止対策への意識は各々レベルが違い、全ての人がよく読みよく理解していただけるわけではないということを理解しなければならない。

# (1) 事前周知など

## ■関係者共通事項（行動調査の実施）

イベントに関わる関係者全員を対象に、開催1週間前～当日までの行動調査を実施した。

**新型コロナウイルス感染症行動調査**

『みちのくまるごと収穫祭in仙台』は「仙台市屋外モデルイベント開催支援」の補助を受けており、イベント関係者の行動調査を依頼されております。  
お手数ですが、イベント参加いただく皆さまの**お一人ずつの行動記録と健康状態**について報告のご協力をお願いいたします。  
(忘れ入りますが、必要枚数をコピーしてお使いください。)

行動歴に關しましては感染リスクの高い場所に関する行動を中心に記載をお願いします。  
※感染リスクの高い場所（例）：船、長距離バス、屋内ライブ、クラブ、パーティー、カラオケボックス、スポーツジム、流行地への滞在歴など

氏名ふりがな		連絡先電話番号	
漢字氏名		所属団体名	

日付	体温	時刻	場所	行動歴/接触歴	状況 (活動内容、出席者の健康状況、イベント規模、体調不良者の有無等)	健康状態
記載例	36.5℃	9時～12時 13時30分～17時頃	①〇〇駅近くのXXキブハウス TEL: 000-000-0000 ②△△県△△市 ③□□県〇〇町	①所属する営業2課の同僚とライブへ参加 ②〇〇観光バスで移動 TEL: 999-999-9999 ③△△駅前で風症状のある友人(〇〇)	①観客約300人、スタンディングで密着。 ②家族(妻、子供2人)を含めバスには20人程度で、乗客に体調不良者あり。 ③マスクの着用なしで30分ほど立ち話をした	良好、喉に痛みあり、咳、嘔吐 など
10月26日						
10月27日						

日付	体温	時刻	場所	行動歴/接触歴	状況 (活動内容、出席者の健康状況、イベント規模、体調不良者の有無等)	健康状態
10月28日						
10月29日						
10月30日						
10月31日						
11月1日						
11月2日						
11月3日						

※11月3日に本部へご提出お願いいたします。

## ■今後の課題

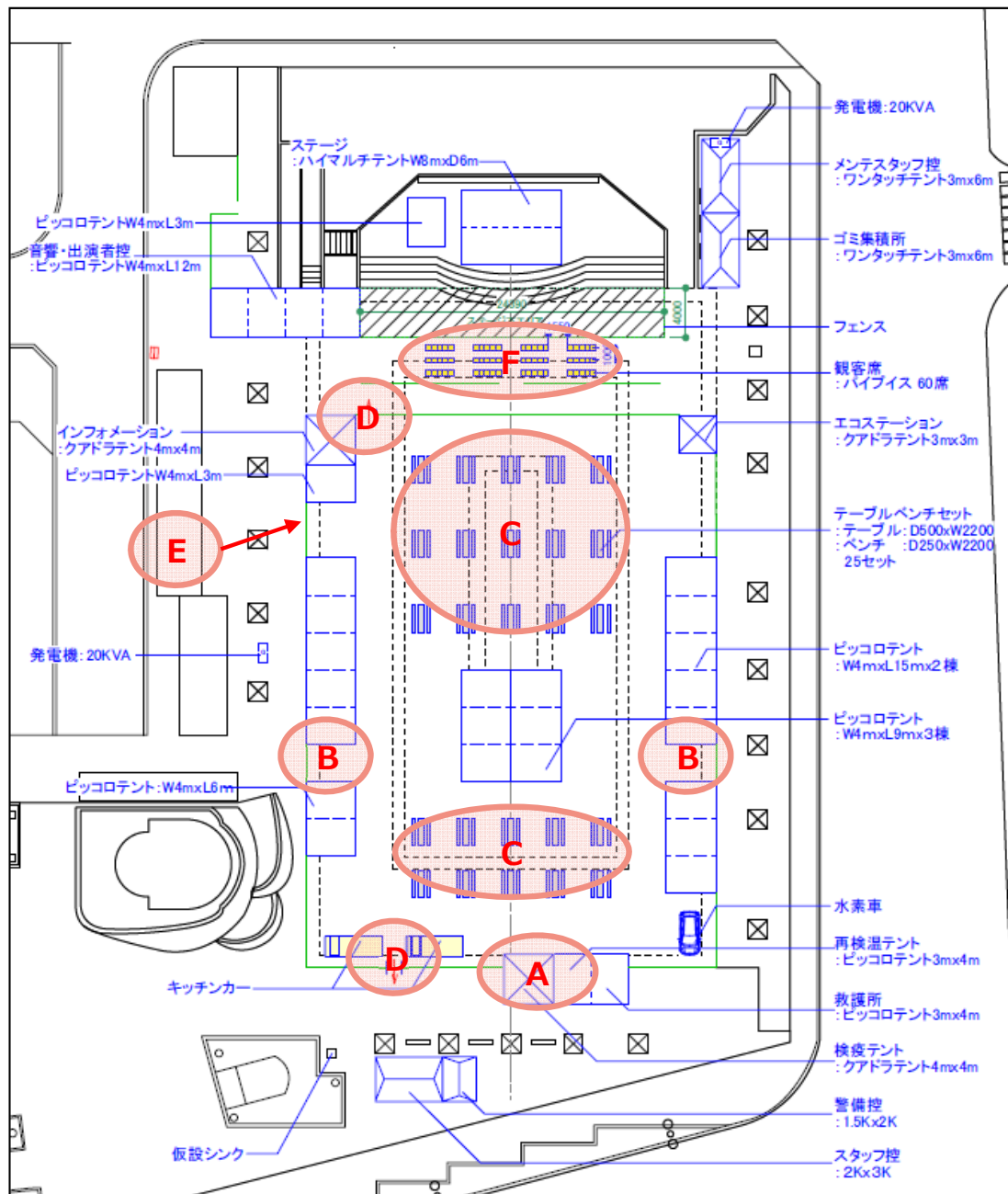
記載すべき項目がどうしても多くなってしまい、記入方法について事務局への問い合わせが多かった。  
また、全ての関係者を対象としているためペーパーの量が増えてしまい印刷コストがかかる上に、大量の個人情報とを保管しなければならないという情報セキュリティの面でも主催者としての社会的責務が問われる。

## ■次回、開催するとしたら改善することが望ましい事項

記載例は書いてあるものの記入方法への問い合わせが多かったため、どのようなことを書くべきなのかを具体的に示す必要がある。  
また、ペーパーの量を削減するためにフォーム入力などでの対応も有効かと考える。

## (2) 会場での感染防止対策

### ■会場レイアウト



A : 入場専用口・再検温スペース

B : 仮設手洗場

C : 休憩スペースの飛沫感染防止パネル  
休憩スペースの消毒

D : 退場専用口

E : 会場区画フェンス

F : ステージ観覧席のレイアウト

その他 :

出店ブースの感染防止対策

手指消毒液の設置

スタッフのマスク・フェイスシールド・ニトリルゴム手袋着用  
(ポジションごと必要に応じて)

感染防止啓発POPの設置

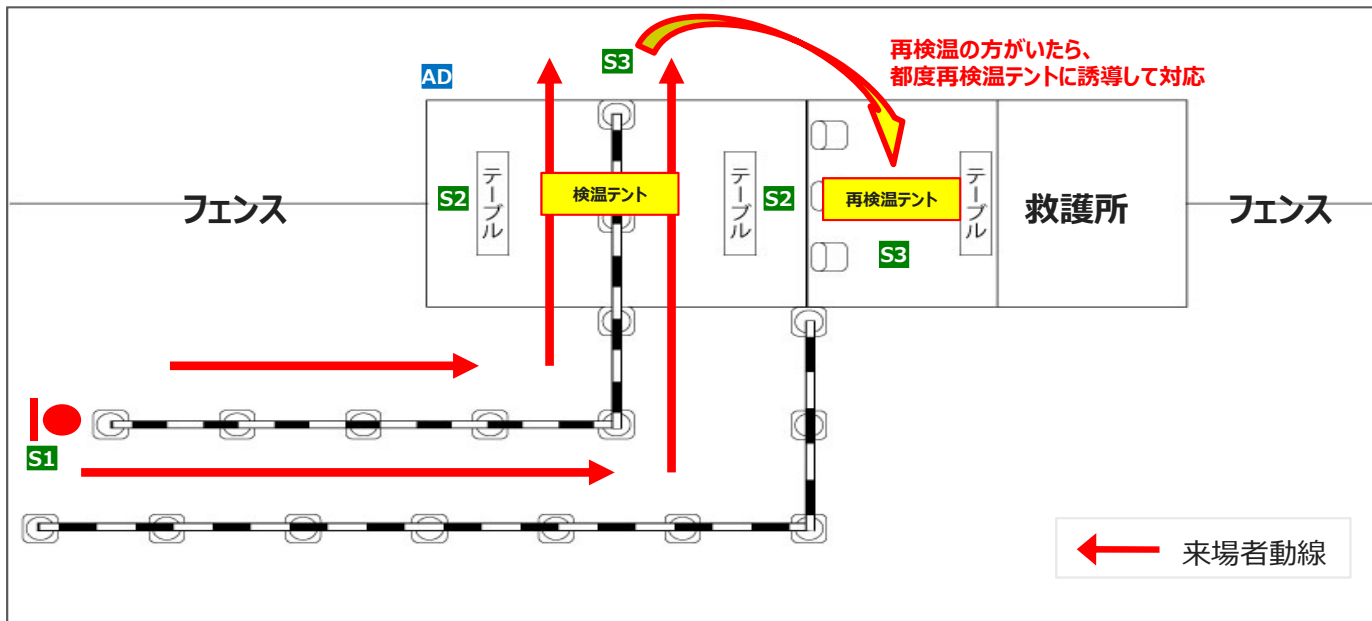
## (2) 会場での感染防止対策

### ■ A：入場専用口・再検温スペース 達成状況（入場確認票・入場確認フォーム・入場時検温・再検温）

接触機会を減らすために極力入場確認フォームでの登録をご案内した。

スマホでの登録が難しい方のために手書きでの確認票も準備し、手書きの際は使い捨て鉛筆を使用した。

検温については非接触式体温計で来場者の体温を測定。37.5℃を超えた方は隣のテントの再検温スペースにて5分ほど待機した後に電子体温計にて再検温する計画だった。2日間ともに再検温の実施はなかった。



#### ●入場フォーム

みちのくまるごと収穫祭in仙台 入場フォーム

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、会場に到着する前に登録をお願いします。

登録した情報は会場スタッフで確認いたします。万一、新型コロナウイルス感染症の疑いがある場合は、登録した情報に基づき、関係機関へ連絡が行われることがあります。ご了承ください。

代表者の名前 (フリガナ) \*

さん 氏名

代表者の電話番号 (ハイフン不要) \*

09012345678

ご来場人数 (ご本人様含む) \*

45

印刷

Google フォームでQRコードを生成しないでください。

©2020仙台市 Image 制作株式会社 仙台市観光局 仙台市観光局 仙台市観光局

#### ●入場確認フォームPOP

ご入場の際はQRコードから入場登録をお願いします

グループの代表の方まで結構です

入力完了画面をスタッフにご提示ください

QRコードを読み取れない方やスマホをお持ちでない方は、スタッフに申し出てください。

手書きの入場確認票にご記入をお願いします。

#### ●入場確認票

入場確認票	
代表者氏名	
電話番号	
ご来場人数 (ご本人様含む)	名

登録した情報は会場スタッフで確認いたします。万一、新型コロナウイルス感染症の疑いがある場合は、登録した情報に基づき、関係機関へ連絡が行われることがあります。ご了承ください。

## (2) 会場での感染防止対策

### ■今後の課題、反省点

入場確認フォームでの登録を極力お願いしていたが、スマホの操作が困難な方などに手書きの確認票があることに気づかない方もおり、諦めて帰ってしまう方がいらした。(特に高齢の方)  
また、入場確認がなぜ必要なのかを理解いただけず、感染があった際に追跡をするために必要な旨ご説明したが、納得いただけなかった事例も発生した。  
検温については問題なく運用できた。

### ■次回、開催するとしたら改善することが望ましい事項

入場登録は手書きのみの展開だと、大量の確認票を用意しなければならないことや大量の個人情報を開催中は現場で保管しなければならないこと、筆記具による感染リスクなどが考えられ、入場フォームでの登録推奨は多角的なリスク回避の面から有効と思われる。一方、スマホ入力が困難な方のために手書き対応は必要で、対象者は高齢者が多いためサイズの大きい立看板などでわかりやすく周知することが重要であると感じた。  
入場登録の必要性に関してもスタッフの口頭説明では限度があり、POPや看板などでの必要性周知が必要であると考え。その点においては、主催者と来場者の意識の違いを感じるがあった。  
今回は小規模イベント主催者にもモデルケースとして活用いただき汎用性を持たせるために、比較的成本のかかるサーモカメラの導入はしなかったが、会場規模・収容可能人数・イベントの予算規模によってはスムーズな入場のために導入は効果的であると考え。

**検温実施中**  
Please Check Your Temperature

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、  
入場前に検温を実施しております。  
体温が37.5度以上あるお客様の入場をお断り  
しております。予めご了承ください。  
また、会場内ではマスクを必ず着用してください。

**Can't enter  
if body temperature  
is over 37.5°C / 99.5°F**

2020  
みちのく  
しまるごと  
収穫祭 in 仙台  
2020.11.23 (祝) 10:00-16:00  
会場 勾当台公園 [市民広場]

**会場入口**  
ENTRANCE

新型コロナウイルスの感染防止対策について

- 入場ゲートにて体温検温を実施します。発熱や体調不良が認められる方の入場はお断りいたします。
- みちのくしまるごと収穫祭 in 仙台会場内では、発熱マスクの着用が必要です。ご来場にあたってはマスクのご持参をお願いいたします。
- 会場内には、消毒・手洗いコーナーを設置しております。会場内での消毒・手洗いをお願いいたします。
- 会場内では、少人数グループ限定での立寄り観覧を認めますようご協力が願っています。入場や会場内入場など、お並びいただき際には充分な情報をお知らせいたします。
- ステージの観覧席に座席をご用意しております。ご利用の際はグループごとにお並びいただきます。各グループの方とは混雑を避けていただきますようお願いいたします。
- 会場内は混雑時、来場人数750人を目安として入場制限を行う場合がございます。あらかじめご了承ください。
- ご来場の際はあらかじめ、新型コロナウイルス感染症対策アプリ(COCCOA)のインストールにご協力ください。

【主催】一般社団法人 東北 ZEN / TBS 主催の株式会社  
【協賛】東北の産業振興・観光局・アソシエイト  
【協賛】第4回全国農産物振興大会実行委員会・東北農産物マーケティング推進機構 ほか  
※本会場は、会場内での飲食・アルコールの提供は行っておりません。

## (2) 会場での感染防止対策

### ■ A：入場専用口・再検温スペース 達成状況（手指消毒・マスクチェック・入場待機列）

検温後に手指消毒液を設置し、入場時の消毒を促した。入場口でのマスクチェックでマスクをお持ちでない方は確認されなかった。入場待機列については一般通行者の動線確保の観点から、あらかじめ入場整列用の資材などは設置しなかった。来場者それぞれで気をつけていることもあってか、スタッフの声がけにより列が前後に密集しないよう適切な距離が保たれていた。



### ■ 今後の課題、反省点

手指消毒については来場者それぞれが日頃から実施しているためか、特に問題なく運用はできた。マスクチェックに関して、入場時にマスクのない方はいなかったが、入場後に飲食のために外したまま場内を歩かれる方がいらした。入場待機列については一部の来場者から「ソーシャルディスタンス表示がない」との指摘もあった。

### ■ 次回、開催するとしたら改善することが望ましい事項

手指消毒は消毒液の設置とPOP設置で来場者には実施いただける様子。マスクチェックに関しては、入場後に外してしまう事例がいくつか確認された。巡回スタッフを複数名配置するとともに、場内はマスク着用が原則であることを入場時に口頭やPOPでお伝えすることが重要であると感じた。今回は市民広場のみを会場としていたため、長蛇の待機列は円形広場内に収めることができた。円形広場も会場とする場合には、イベント会場を若干狭めて公園内に収めるなど、待機列の運用方法を検討する必要がある。入場待機列の解消方法として入場レーンを増やす、サーモカメラの導入などによって入場スピードを上げることは可能であったが、今回の場合は結果として、入場に時間がかかったことにより一定時間内における入場者と退場者の人数が一定となったため、入場制限は実施せずに済んだ。



## (2) 会場での感染防止対策

### ■B：仮設手洗場

来場者の手洗い用に、仮設トイレで設置する手洗器を会場2箇所に設置した。  
厚生労働省で発行している手洗いについてのPOPも掲示し、手洗い仕方やの重要性を啓発した。

### ■今後の課題、反省点

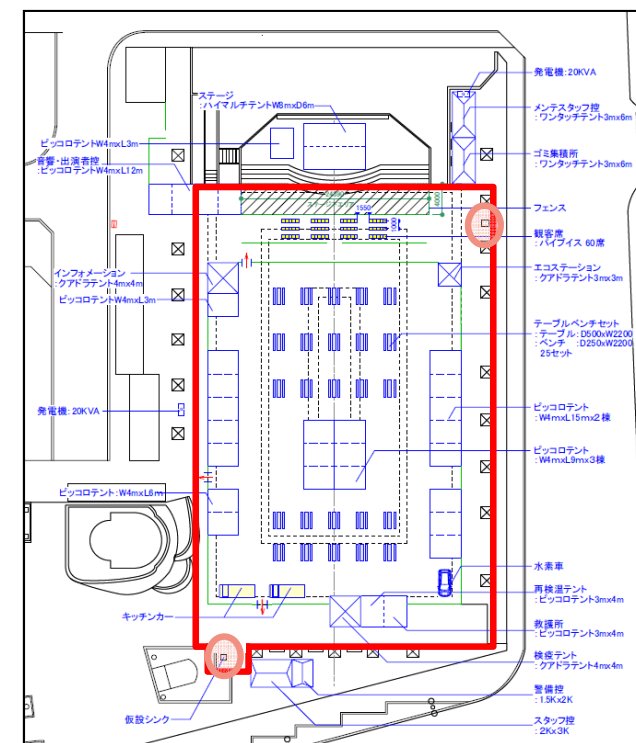
テントの間に設置したこともあってかイベント混雑時は特に、存在に気づかない方も散見された。

### ■次回、開催するとしたら改善することが望ましい事項

会場内に設置する際は手洗器の存在を確実に周知するために、サインを高い位置に掲げるなど、混雑時にも認識できる工夫が必要である。

また、市民広場東側と北側には歩道が隣接しており、一般通行者の導線確保は可能であることから、会場エリアを広げて市民広場既設の水道を来場者用の手洗場として活用することも可能であった。

その場合、飲食出店者用のシンクとの棲み分けが必要となることは留意しなければならない。



例えば赤の枠をイベント会場エリアとすれば、既設の水道を手洗い場として活用できる。

## (2) 会場での感染防止対策

### ■ C：休憩スペースの飛沫感染防止パネル、休憩スペースの消毒

休憩スペースのテーブルに飛沫感染防止対策として6分割の亚克力パネルを設置した。また、座席は消毒などメンテのしやすさ、座席自体の移動がしにくいようにベンチとした。同一グループでの同一テーブルの使用はベターであるという前提で備品選定をした。結果として、同じベンチにほかグループが座っている様子は見られなかった。休憩スペースの消毒に関しては、利用者が離席したタイミングで実施する計画とした。

### ■ 今後の課題、反省点

パネルを設置することにより、他グループの方が向かい合わせで座ることができ、限られたスペースの中で会場レイアウトしなければならないWithコロナのイベント開催においては、感染防止対策であるとともに、省スペース対策としても効果的であった。座席を設けたため滞在時間が長くなり、マスクを外して食べ歩きをされる方が確認された。また、消毒実施については空いた座席へ次の利用者がすぐに座ってしまうため、タイミングを逃してしまうこともあった。



### ■ 次回、開催するとしたら改善することが望ましい事項

亚克力パネルは非常に有効であると考えますが、同グループであろうと家族や同じ世帯で生活している方とは限らないため、密回避・隣同士の飛沫感染防止を目的として「話す時はマスク着用」「向かい合わないよう」などの注意喚起POPの設置は感染防止の観点からは必要であると考えます。

ただし、屋外イベントであるため、強風・突風による飛散などの事故には十分に配慮が必要で、しっかりとした作りの資材選定が重要である。

また、会場をフェンスで仕切っていることから多くの座席設置が難しいWithコロナのイベント開催において、今回は来場者数に対して座席が不足していた。座席の回転数向上のためにハイテーブル（立ち席）の活用は有効であると考えます。だが、子連れや高齢の来場者を対象に「思いやり席」などの着座できる休憩スペースの設置も必要である。

また、出店者の知り合いと思われる方がマスクを外し飲食しながら談笑している場面も見られた。通常のイベントであれば当たり前の光景であるが、Withコロナのイベント開催においては十分に座席スペースを確保した上で、趣旨をご理解いただき空いたスペースへのご案内をすることが理想である。

消毒実施については休憩スペース周辺に専属スタッフを複数名配置するとともに、前の方の利用後に消毒を実施する旨などを周知するPOPなどの設置が必要であった。

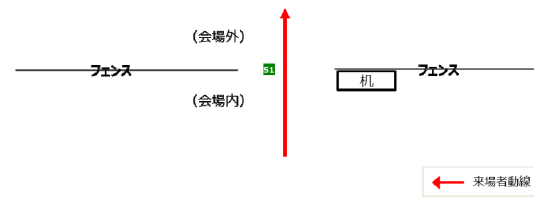
いずれにしてもイベント主催者としては、来場者へBeforeコロナのイベントと楽しみ方が変化していることをご理解いただくための周知徹底が求められるとともに、備品のサイズに関しては余裕を持って使用できるサイズの選定が望ましい。

## (2) 会場での感染防止対策

### ■D：退場専用口

会場内に2箇所、退場専用口を設置した。スタッフと警備員を配置し、そこから入場しようとする方については、入場専用口からお並びいただくようにご説明した。

11月3日は多くの方にご来場いただいたため再入場される方が多く、急遽退場口を再入場兼用とするオペレーションとした。



### ■今後の課題、反省点

退場時の運営に関しては特に問題なく実施できた。

再入場兼用とした際に、「退場者」「再入場者」「入場口できると思った来場者」の3者が交錯し、混雑する場面も確認された。

想定外だったのは、ステージ側退場口から入場しようとする新規来場者が多かったことである。

また、退場口付近が混雑しないようにエコステーションを離れた位置に設置したが、ゴミを持った来場者が退場口付近まで来てしまい、結果としてエコステーションまで会場内を往復することとなってしまった。



### ■次回、開催するとしたら改善することが望ましい事項

再入場に関しては入場登録の証としてリストバンドの装着などを実施するための予算を割くべきであった。再入場スタンプの採用も考えられるが、手洗いを推奨するWithコロナのイベント開催では不向きと考える。

市民広場のみを会場とする場合、トイレが会場外になってしまうため、スムーズな運営のためには必須であると考え。

理想としては退場口と再入場口を別に設置することだが、その分専属スタッフの配置が必要となるため、予算規模に応じて主催者側での検討が必要である。

ステージ側から入場できるといった方への対応としては、入場口へ誘導する大きな看板などの設置で極力退場口付近へ寄せ付けない工夫をすることが望ましい。また、エコステーションは出口付近に設置することが望ましい。



今回設置したPOP。A3サイズでは小さく、視認性が悪かった模様。



エコステーションは来場者に説明しやすいよう（会話接触の短縮）形状の目立つものとし、一言で説明可能な工夫をした。「白いとんがり屋根」の説明で来場者に理解いただけたことは成功だった。

## (2) 会場での感染防止対策

### ■ E：会場区画フェンス

今回の開催では検温・入場登録をした方のみが会場内に入れるよう、会場をフェンスにて区切ったレイアウトとした。テントとテントの間のみを設置し、テント部分にはテント自体が壁となるため設置をしなかった。

### ■ 今後の課題、反省点

フェンスの設置はWithコロナでのイベント開催において重要であると考えますが、設置にはそれなりのコストがかかってしまう。

また、イベント開始前に関係者がフェンスを開けて出入りしていたことで、その部分が完全に復旧されておらず、外部から進入できる状況となっていた。(イベント開始前に復旧した。)一方で、周知事項の多いWithコロナでのイベントでは、POPやプラカードを支持するために利用することもできる。



### ■ 次回、開催するとしたら改善することが望ましい事項

イベント主催者ごとに必要数のフェンスを手配し、設置することは全体予算を圧迫してしまう。会場所所有の備品としてフェンスなどの設備貸出があれば、イベント開催の大きな手助けとなると考える。

フェンスの保守に関しては、特にイベント開始前については関係者用の開放口を増やし、スタッフを配置するなどに対応することが望ましい。限られた時間での出店・出演準備において、1～2箇所の出入口だけでは非常に不便であり、特に水場の近くなどには関係者用口を開始前・終了後にスタッフ配置の上で開放することができればスムーズな運営の実現ができると思う。

## (2) 会場での感染防止対策

### ■ F：ステージ観客席のレイアウト

観客席はステージから4 m距離を取りフェンスを設置し、その後方にパイプ椅子を設置した。消防当局から非常時の転倒防止策として5脚づつを連結するよう指導があったため、指導通り連結し、他グループと隣り合わないよう注意喚起のPOPを掲示した。また、一般通行者の導線確保を目的として、観客席エリアと会場エリアの間に通路を設けた。

### ■ 今後の課題、反省点

ステージと観客席の距離は充分であったと考えるが、パフォーマンスとしてBeforeコロナ同様に観客席付近まで降りての演奏などが見られ、市民の手による賑わい創出を目的としたステージとしては良かったのだが、感染防止対策の観点からは好ましくない状況があった。また、椅子を連結しなければならぬという条件の中、他グループと隣り合わないよう注意喚起は実施したものの、一度座ってしまうとどの方が同グループなのか把握は難しかった。また、観客席と会場エリアの間に通路を設けたことで会場が分断されてしまい、会場エリアのステージ側で立見が発生してしまい、密を生んでしまった。

### ■ 次回、開催するとしたら改善することが望ましい事項

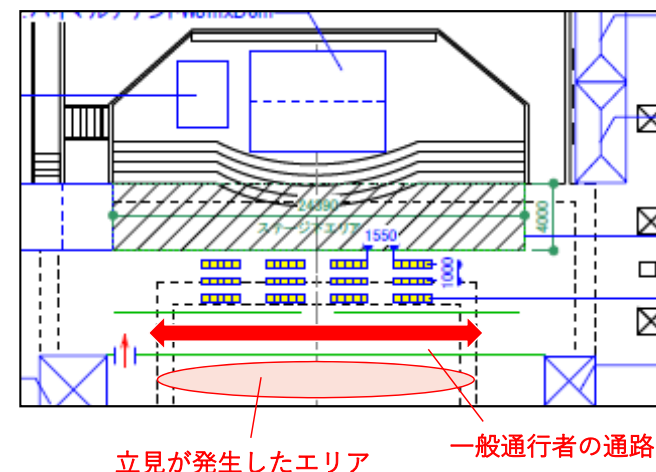
出演者ごとのパフォーマンスは事前に全てを把握することは非常に困難。出演者にはWithコロナでのイベント開催であるということを充分に理解いただき、ステージから降りての演奏などをご遠慮いただくよう周知が必要であった。

また、観客座席の連結については、規制緩和が認められない場合は入口にスタッフ配置の上、人数確認し、座席を指定するなどの体制が必要である。

立見の解消については、今回ステージエリアと会場エリアの間に設けた通路を設置しないことで、今回と同規模でも2倍強の座席確保が可能となり、立見は発生しなかったと考えられる。オープン開催である屋外イベントのステージにおいて、立見を規制することは非常に難しいが、対策を練ることで回避できるものと思われる。

その他に、次回改善することが望ましい事項としては以下の通り。

- ・ステージプログラム間は十分に時間を確保し、その間に司会者より感染防止対策についてのアナウンスを実施したほうが良い。
- ・ステージ進行側で「大声禁止」や「密にならないようお願い」などのプラカードやPOPを準備し、万が一プログラム中にそういったことが起こった際に、プログラムを止めることなく注意喚起できれば安心。
- ・ステージ上での密を回避するためにも、主催者は出演人数やステージ上の配置についての把握は重要である。



## (2) 会場での感染防止対策

### ■その他事項：出店ブースの感染防止対策

出店ブースの感染防止対策としては、「原則マスクの着用」「飲食提供の際はフェイスシールド・ビニール手袋の着用」「自社ブース前の購入待機列の整理」「自社ブースの適宜消毒」を出店者へ協力依頼した。

当初想定していた全テントへの飛沫感染防止ビニールの設置は、各出店者ごとにブース内レイアウトが異なることや前面での火気使用が事前に確認できたため、火災防止の観点から安全面を考慮し実施しなかった。

### ■今後の課題、反省点

マスク着用については概ね守られていたが、購入者の列が途切れた際など一段落ついたタイミングでマスクを外している出店者の姿が見受けられた。

フェイスシールド・ビニール手袋については、主催側でも配布を実施したが全出店者が着用しているわけではなかった。

自社ブース前の待機列整理に関しては、特に11月3日に関しては多くの方にご来場いただいたため、出店者側でも待機列整理までは手が回らない状況が起きた。

### ■次回、開催するとしたら改善することが望ましい事項

今後、気温の高い時期に開催すると仮定した場合、一日中マスク着用は出店者の熱中症リスクなど健康管理の観点からは望ましくないと考える。調理時や接客時はもちろん着用は必須と考えるが、来場者から見えない場所に水分補給時や休憩時などは出店者用のマスクを外せるエリアを設けることも検討が必要と感じた。

フェイスシールド・ビニール手袋については着用が望ましいが、どのポジションにおいて必須なのかなどの線引をすることが難しく、専門家の知見などを取り入れたガイドラインなどがあれば出店者への説明・ご理解いただくことができると感じた。

自社ブース前の待機列整理に関しては、Withコロナのイベント開催においてはスペースが限られるため非常に難しいが、混雑時を想定し会場回遊スタッフを複数名配置することで対応可能なものと思われる。



## (2) 会場での感染防止対策

### ■その他事項：消毒液の設置

入口・会場各所・出口などに設置した。会場入場時はもちろんだが、退場時にも手指消毒を実施することは感染防止対策として重要であり、退場時の周知も重要であると考えた。また、アルコール濃度については厚生労働省の発表に基づき、濃度70%以上のものを使用した。

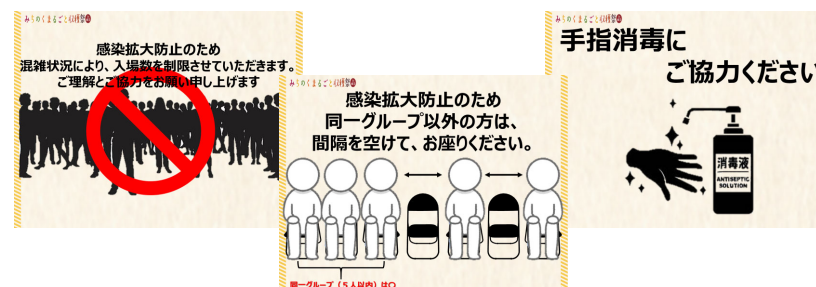
### ■その他事項：スタッフのマスク・フェイスシールド・ニトリルゴム手袋着用

運営に関わるスタッフにはマスク・フェイスシールドを基本装備とし、必要なポジションにはニトリルゴム製の手袋装着を実施した。ゴム手袋については、ビニール製の密着しないタイプのもものでは指先が動かしづらいため、手指に密着するタイプのものを選定し、作業に支障はなかった。

今回は11月開催こともありそれほど心配はなかったが、6月～10月初旬頃までのイベントにおいては、マスク・フェイスシールド着用による熱中症のリスクも考えられるため、適度な休憩や水分補給ができる場所の確保は、運営スタッフの安全を守るために重要である。

### ■その他事項：感染防止啓発POPの設置

会場内に適宜、感染防止啓発POPの設置を行った。A3ラミネートサイズにて、会場を囲うフェンスを中心に利用し、設置したが、混雑時は来場者に隠れてしまい視認性が悪かった。一部のはプラカードのような作りで目線の高さ以上に掲示することで解消するものと思われる。



### ■その他事項：COCOAインストールについて

事前告知チラシ・当日会場入口の看板でCOCOAインストールについてご協力のお願いを実施した。一部の来場者から「QRコードでの連絡先登録や用紙への記入は時間がかかる。COCOAのインストール画面の提示にすることを検討するべき」とのご指摘をいただいたが、入場時にCOCOAインストールのみで十分なものなのか、またどこまでの情報を取得するべきかなど、開催地の自治体とも協議の上で決定することが望ましいと考える。前述したが、情報登録の際も「こういった重要性の上で情報を登録していただいているのか」を来場者へご理解いただけるようPOPやサインなどで啓発することが必要であると感じた。

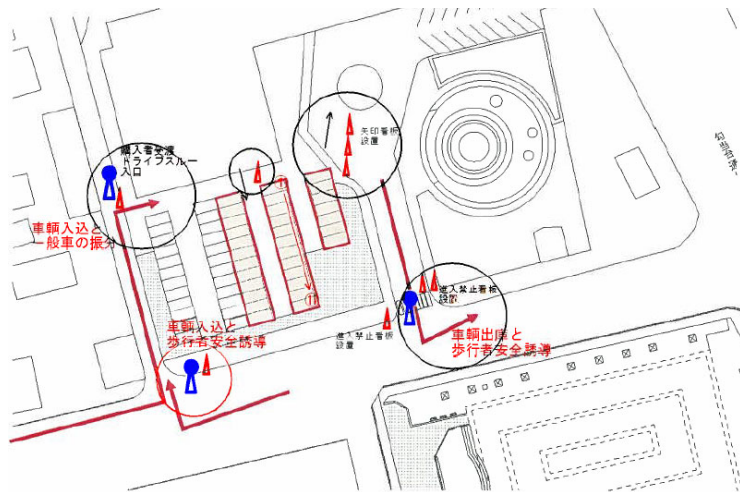
## (2) 会場での感染防止対策

### ■その他事項：都市型ドライブスルーマルシェ実証実験について

コロナ禍において新しい生活様式に則った販売方法として主に地方にて実施されているドライブスルーマルシェを都市部での実施について実証実験を行った。

市役所前広場をにて実施し、近隣の渋滞防止策として購入時に受取時間の予約（2時間毎）、入場口と退場口の分離、右左折ポイントに警備員の配置を行った。

今回は天候に恵まれたが、仮に雨天の場合でも市役所既存の軒下にテーブルなどを並べることができるため、非常に使いやすい会場であった。当日は特に混乱や渋滞はなく、都市部でも運用方法・会場の検討・選定によっては実施可能であることが実証されたと考える。



今回ドライブスルーマルシェを実施したことで、市役所前広場の新たな可能性が広がったと考える。元々敷地への出入口が西・南・東の3箇所だけであるため、入場コントロールもしやすく備品費・人件費に係る経費も最小限で抑えることができる。

更にロータリーの地形を活用することで、来場者動線も一本化しやすい。

Withコロナにおけるイベント開催において、安全な運営を実現するために適した会場であると感じた。



## (2) 会場での感染防止対策

### ■その他事項：ステージ出演者控え・スタッフ控えについて

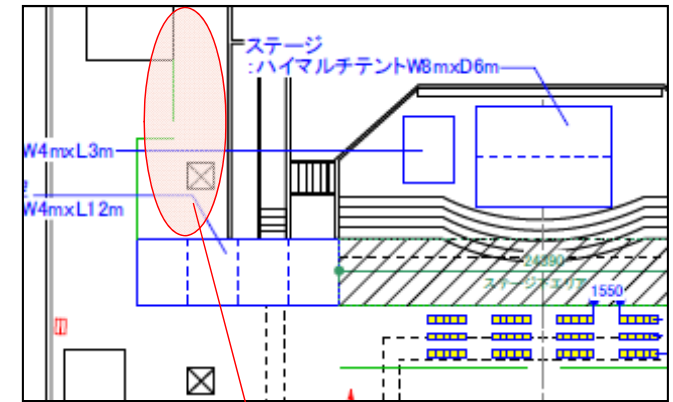
今回はステージ出演者の控えとしてステージ下手側にテントを設置し、なるべくテント内で待機することのないようお願いした。

スペースが限られてしまうWithコロナのイベント会場において、控え場所の問題は重大であり、「密回避」に加え「一般来場者との接触機会の低減」も意識しなければならない。今回設定した出演者待機エリアではスペースが不十分であり、雨天時の対応なども難しい。

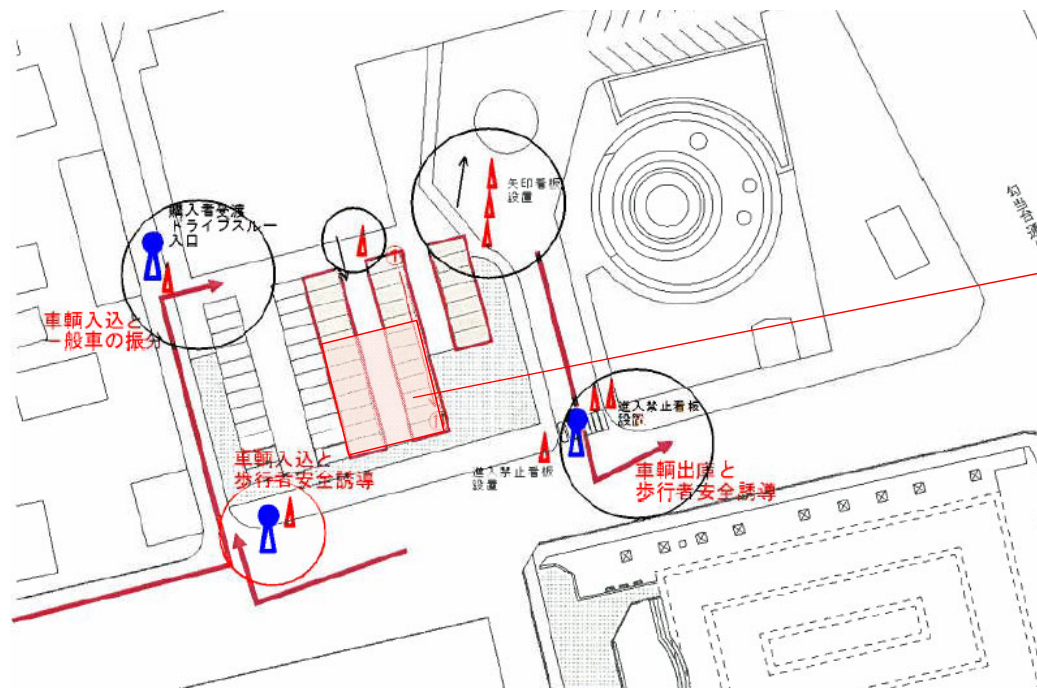
今回はドライブスルーマルシェとして使用させていただいた市役所前広場の一角を「出演者」「警備」「運営スタッフ」などの控えエリアとすることで、一般来場者との接触を避けることができ、万が一関係者から感染が認められた場合も被害は最小限に食い止められるものと思われる。

また、フェンスなどで囲い警備配置をすることで、防犯上の理由からも有効であると考えられる。

今後のイベント開催路においても、市役所前広場は会場として有効に使用できるものと思料される。



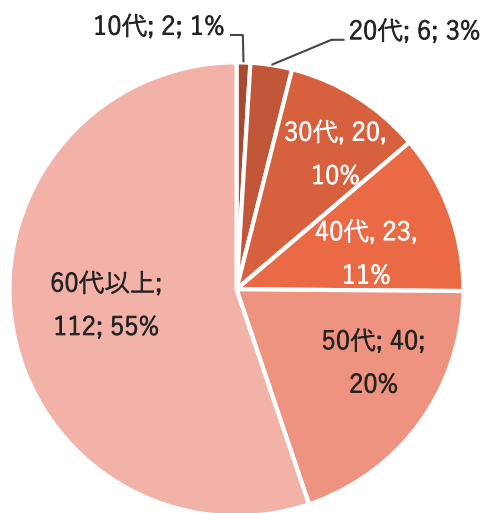
出演者待機エリア



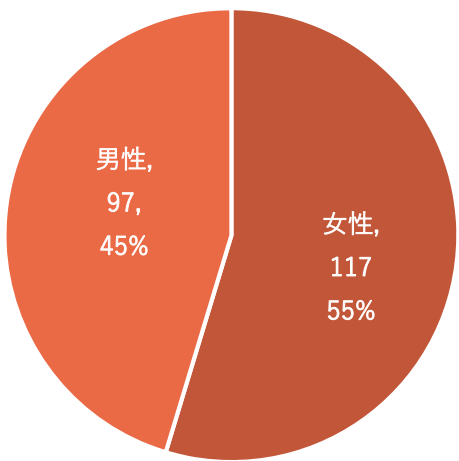
このエリアを関係者エリアとすることで会場スペースの有効利用及び、一般来場者との接触回避が可能であると考えられる。

■ 来場者向けアンケート <回答者属性>

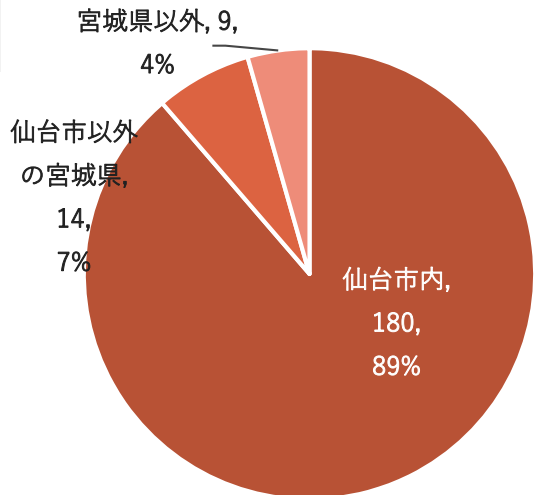
年齢  
N=203



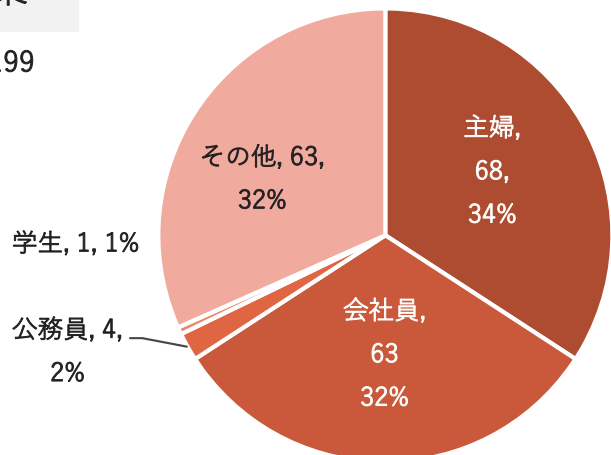
性別  
N=214



居住地  
N=203



職業  
N=199

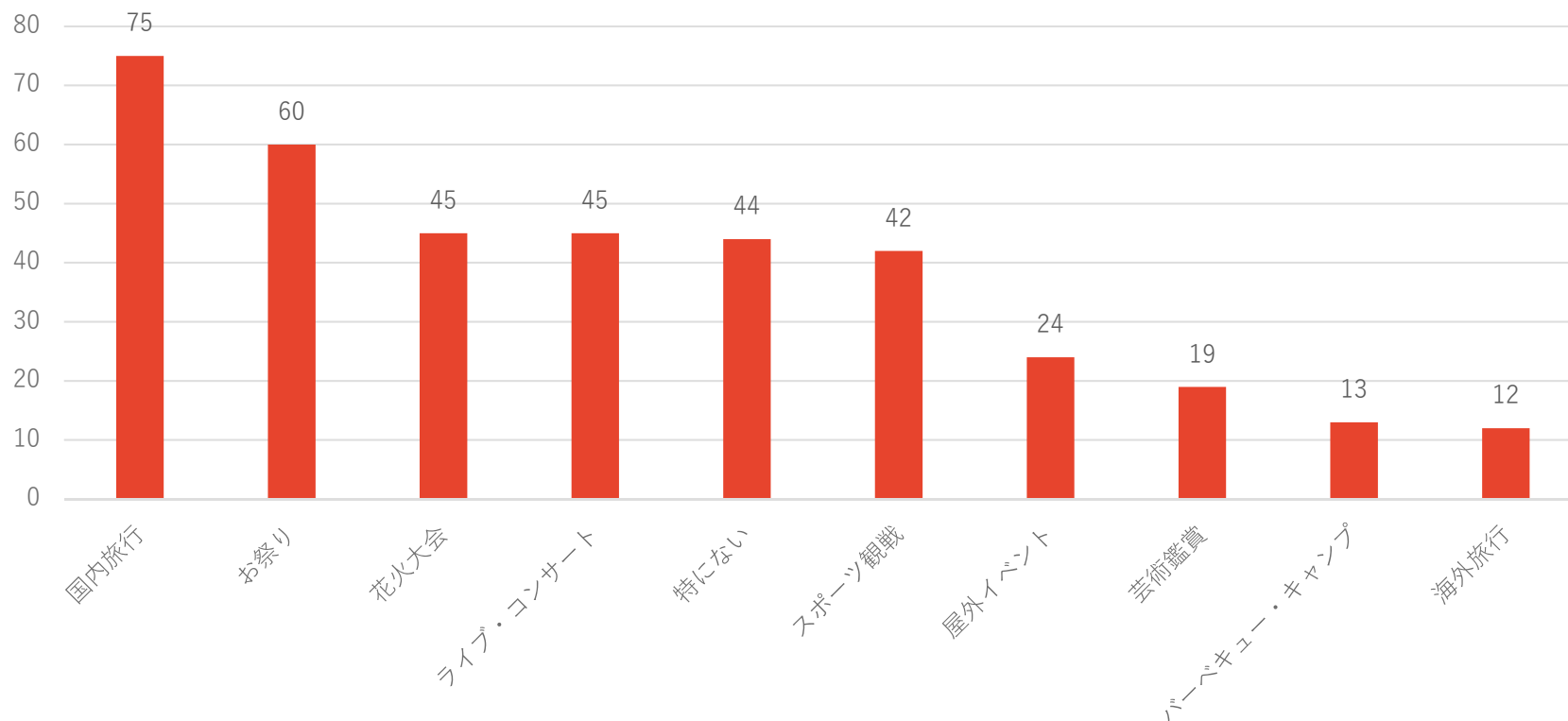


アンケートに回答いただいた年齢層としては60代以上が過半数を占めており、非常に協力的だったことから感染防止対策への関心度の高さが伺える。居住地は仙台市内が大半で通常時の集計結果よりも割合が多く、活動範囲を限定していることが伺える。

■ 来場者向けアンケート <アンケート回答結果>

設問1：  
新型コロナウイルスの影響で参加中止したイベントがあれば教えてください。（複数回答可）

N=379

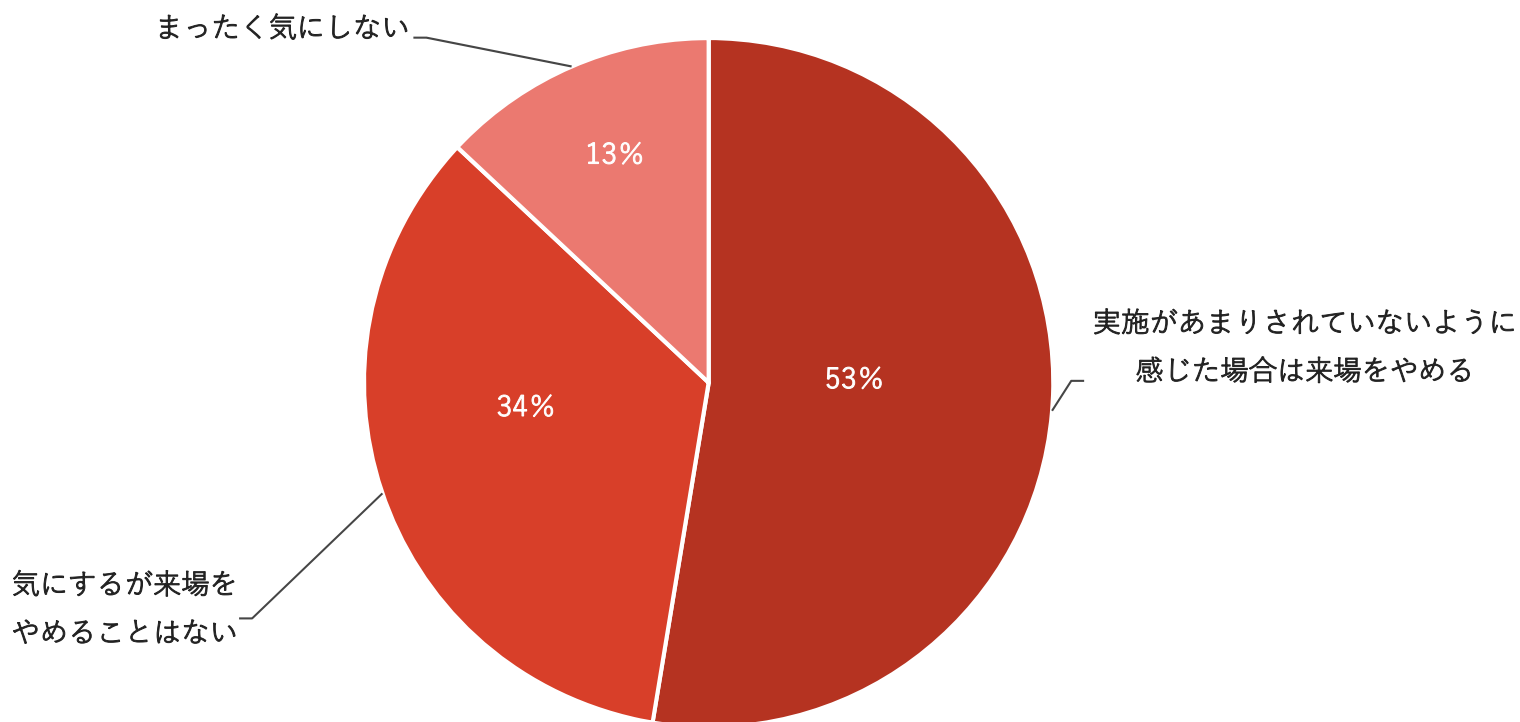


開催自体が中止になってしまっている「お祭り」「花火大会」「ライブ・コンサート」「スポーツ観戦」の割合は全体として非常に多かったが、項目として最も多かったのが「国内旅行」であった。一般生活の中で個々の判断において自粛・中止をした方が非常に多いことが伺える。今回のような、地域を越えて地元で各地の体験ができるようなイベントはコロナ禍の現状で非常に好まれると考える。

■ 来場者向けアンケート <アンケート回答結果>

設問2：  
イベント会場でのコロナ対策実施はどのくらい影響しますか。

N=192

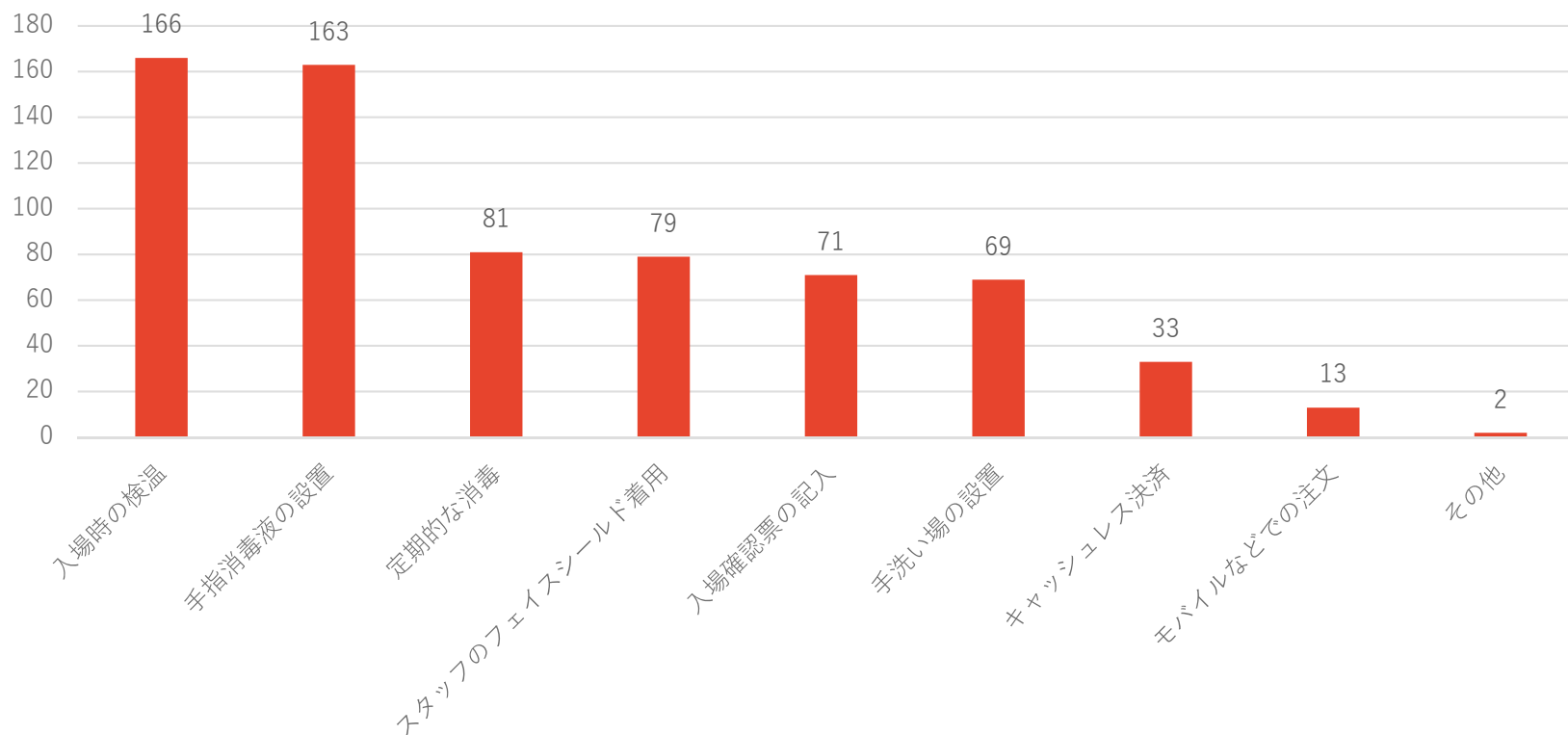


会場での感染防止対策に関する意識をしている方は半数を超えており、コロナ禍でのイベント告知においてコロナ対策をアピールすることは来場動機に繋がり、来場者の安全・安心につながるが見取れる。反面、まったく気にしないと回答した方は13%となり、今後のイベントの安全・安心な運営を実現するためにはこういった層の方々へのアプローチ方法を検討することが必要と考える。

■ 来場者向けアンケート <アンケート回答結果>

設問3：  
イベント会場であなたが有効だと思う対策はどれですか。（複数回答可）

N=677



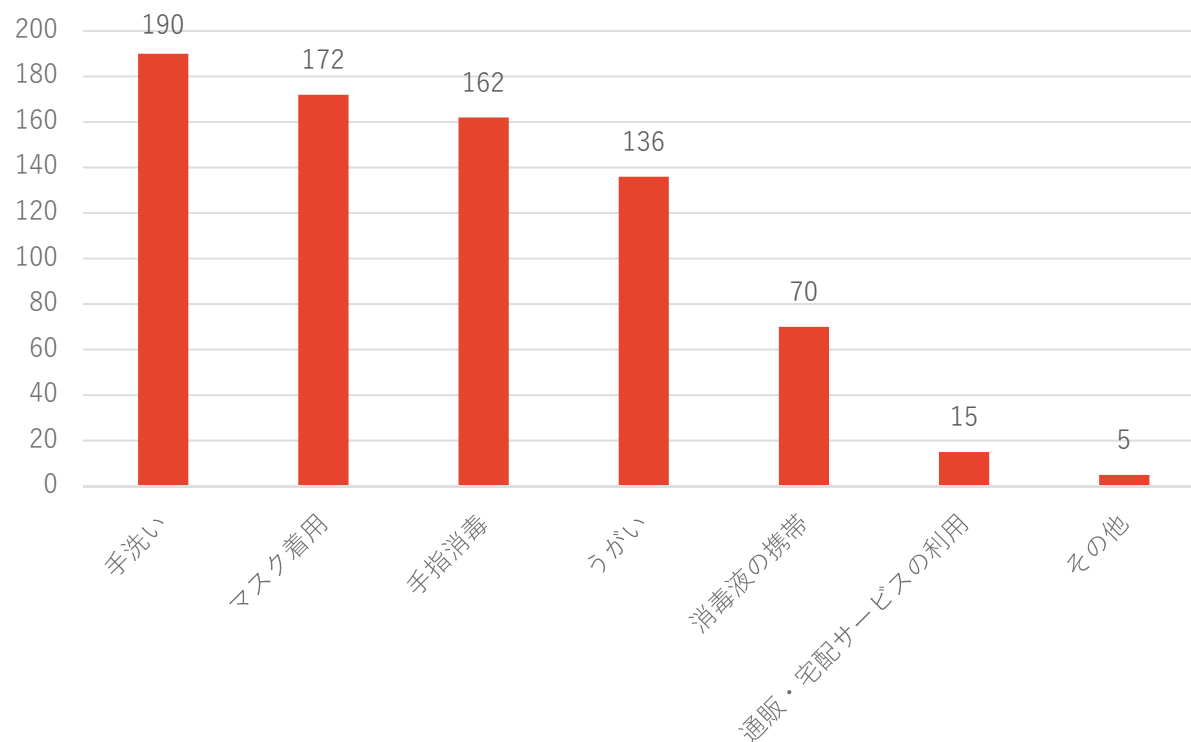
来場者視点からも「入場時の検温」「手指消毒液の設置」は有効と考えられており、前問のコロナ対策に対する来場動機の結果からも、イベント実施時にこの2点は必須の対策であると考えます。  
また、比較すると「入場確認票の記入」が割合としては少なく、主催者側の必要性和来場者側の認識に食い違いがあるように見られる。確認票の必要性をわかりやすく啓発していくことは今後のイベント開催に置いて非常に重要だと考える。

## ■ 来場者向けアンケート <アンケート回答結果>

設問4：

あなたが普段からしている感染防止対策を教えてください。（複数回答可）

N=750



その他回答

- ・人混みは避ける。危機意識の低い人に近づかない。
- ・帰宅後の入浴、シャワー

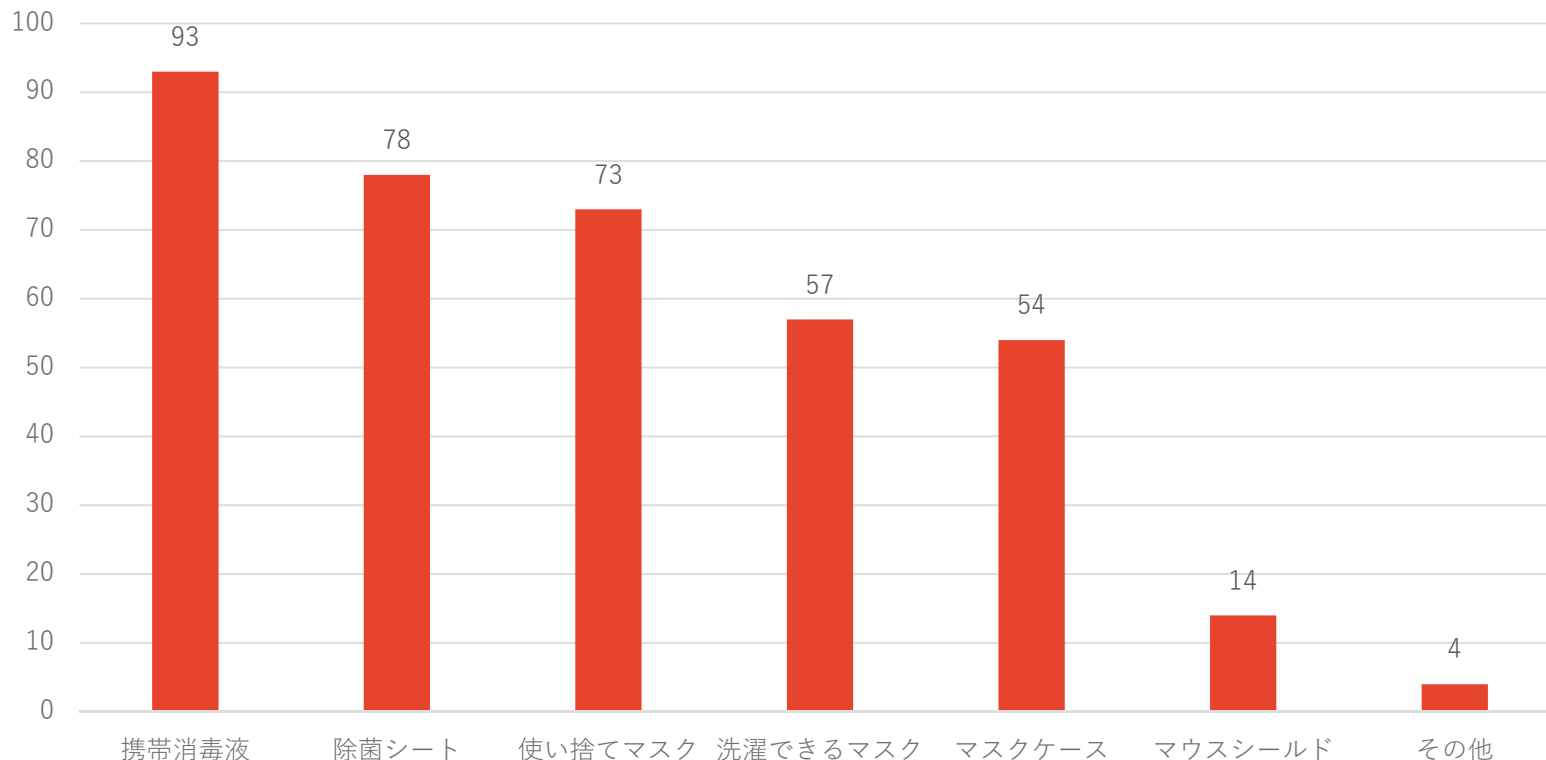
「手洗い」「マスク着用」「手指消毒」「うがい」はほとんどの方が当たり前のように実施している。「通販・宅配サービスの利用」と回答した方は非常に少なく、感染防止対策としての認識は低いようである。仙台地域では「取り寄せる」という行為より「赴いて購入する」というスタイルが好まれる傾向が読み取れ、デリバリーのような形式よりも今回のようなドライブスルー形式の方が適しているように考えられる。

## ■ 来場者向けアンケート <アンケート回答結果>

設問5：

来場者プレゼントなどでもらったら嬉しいものがあれば教えてください。（複数回答可）

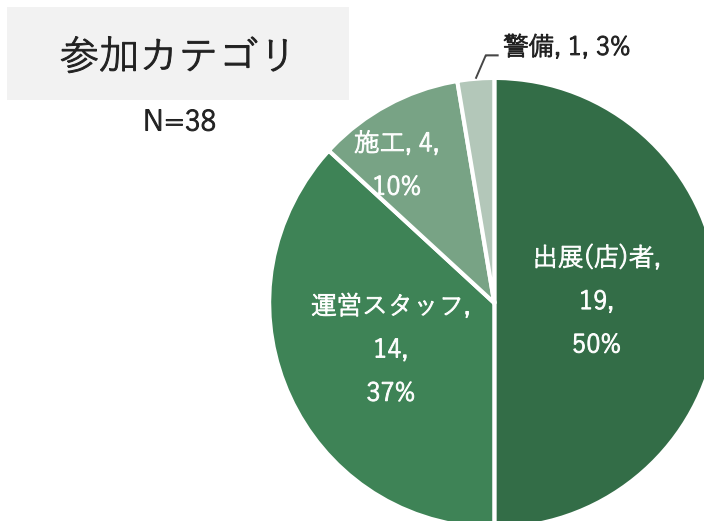
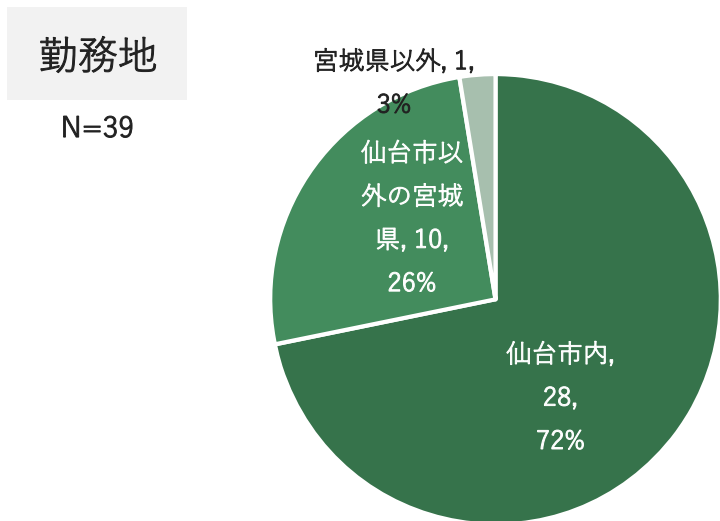
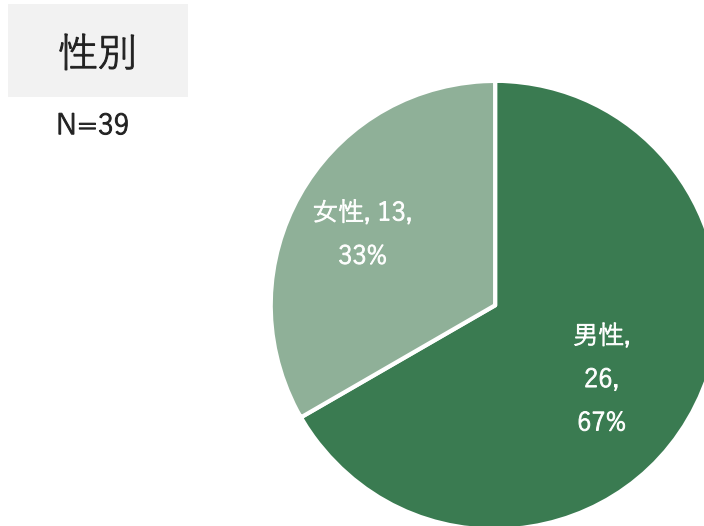
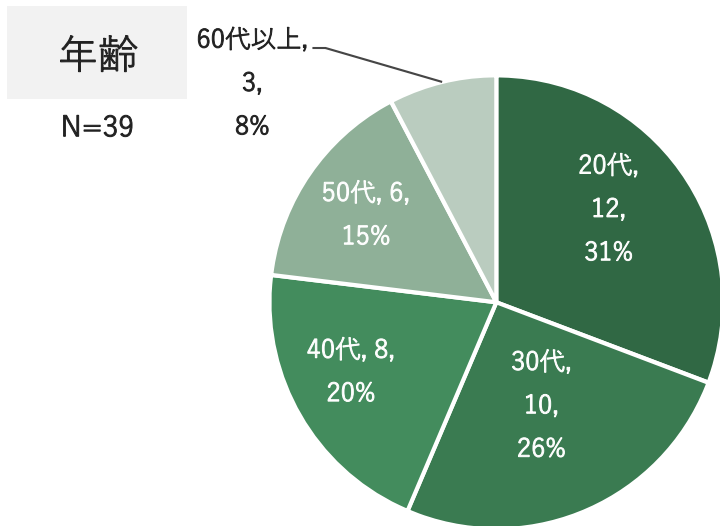
N=373



今後のイベントノベルティの参考として集計した。設問4で回答数の少なかった「携帯消毒液」が一番多く、「所持したいが実施はしていない」という現状が伺える。

コロナ対策関連消耗品はWithコロナのイベント開催においてまだまだ需要があり、来場動機を刺激するイベントノベルティとしての配布は有効と考える。

■ 運営スタッフ向けアンケート <回答者属性>



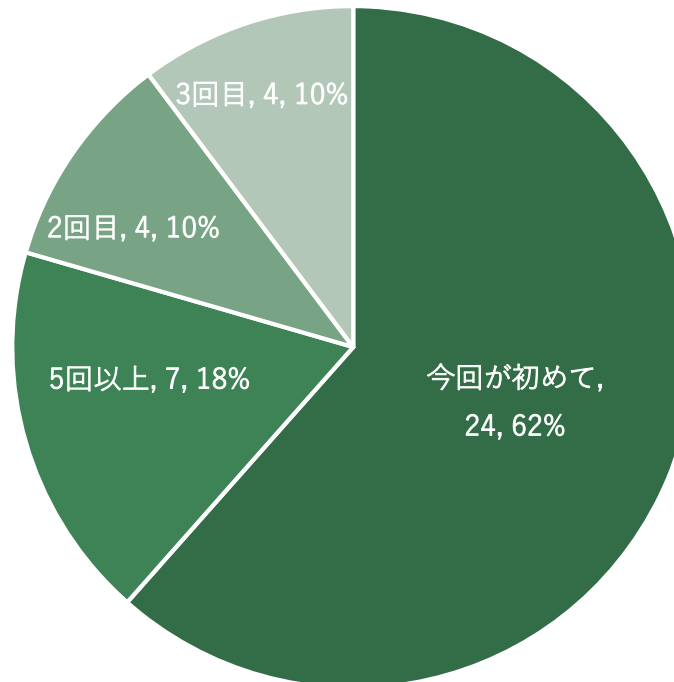


■運営スタッフ向けアンケート <アンケート回答結果>

設問1：

新型コロナウイルス流行後にイベント参加は何回目ですか。

N=39



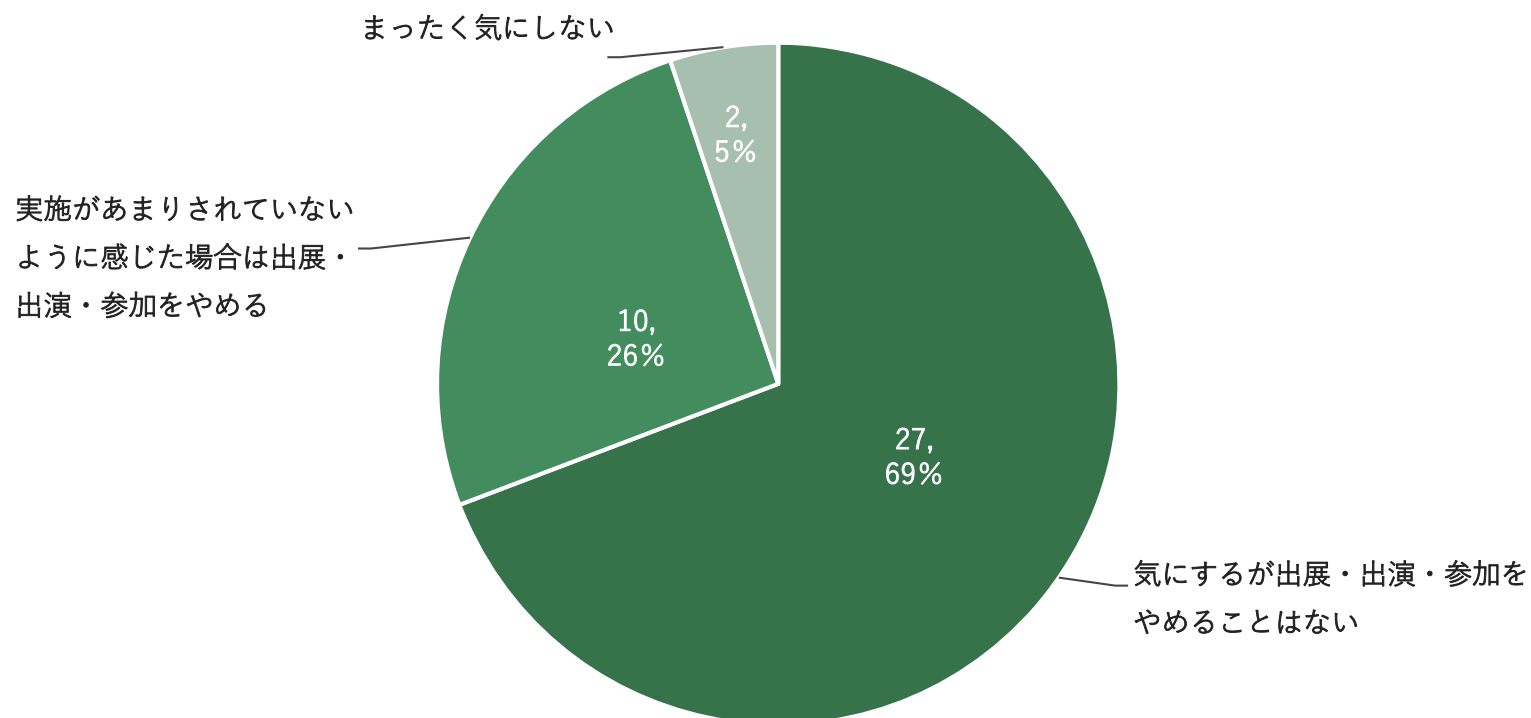
今回のイベントが新型コロナウイルス流行後に初めて参加したという関係者が62%という結果となった。平時であれば11月はイベント時期の終わりの頃だが、相次ぐ中止によりイベント参加ができていなかった関係者が多数いたようだ。

■運営スタッフ向けアンケート <アンケート回答結果>

設問2：

コロナ対策実施はイベント参加の判断にどのくらい影響しますか。

N=39

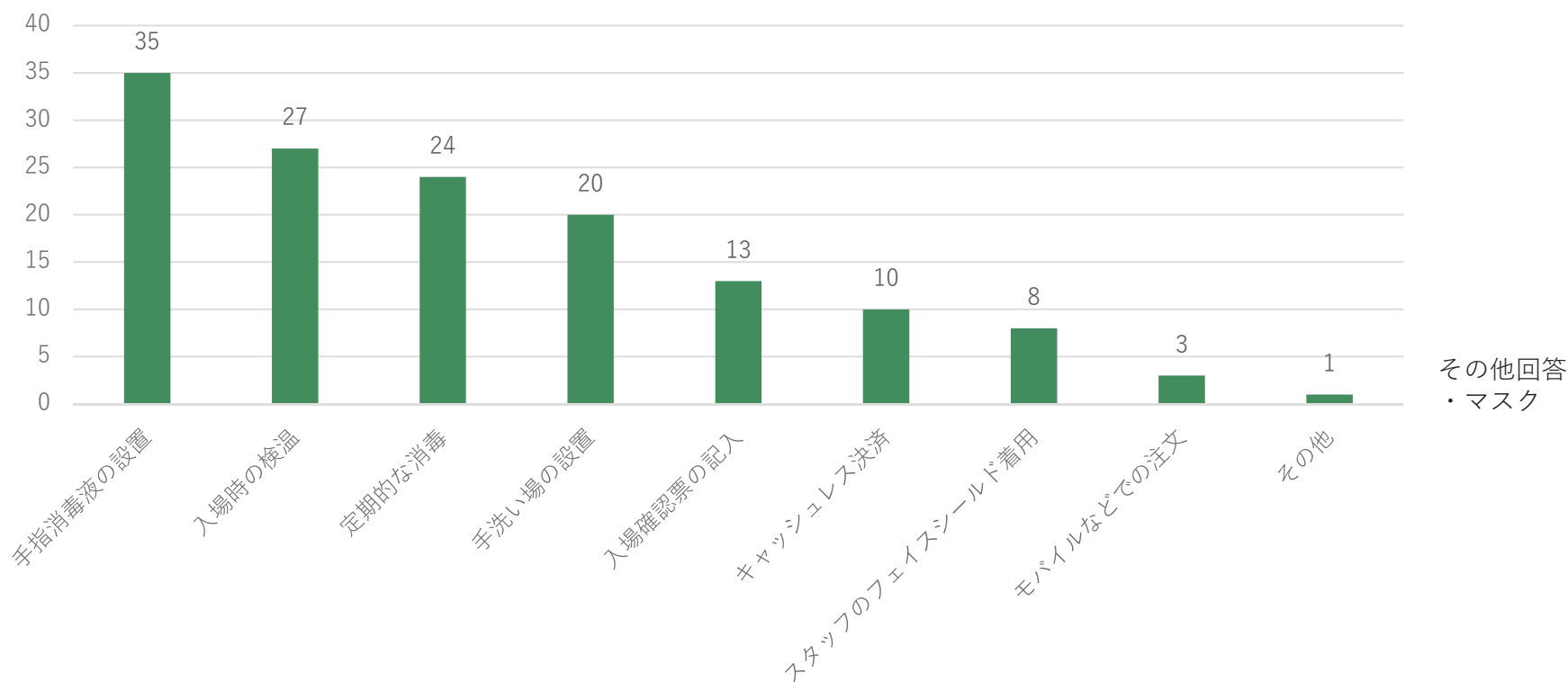


コロナ対策実施がどのくらいイベントへの参加動機となるのかを図るために集計。仕事として参加をするからか、コロナ対策の実施は参加動機への大きな要因とはなっていないことが読み取れる。来場者との意識の大きな違いを図ることができた。

■運営スタッフ向けアンケート <アンケート回答結果>

設問3：  
イベント会場であなたが有効だと思う対策はどれですか。（複数回答可）

N=141

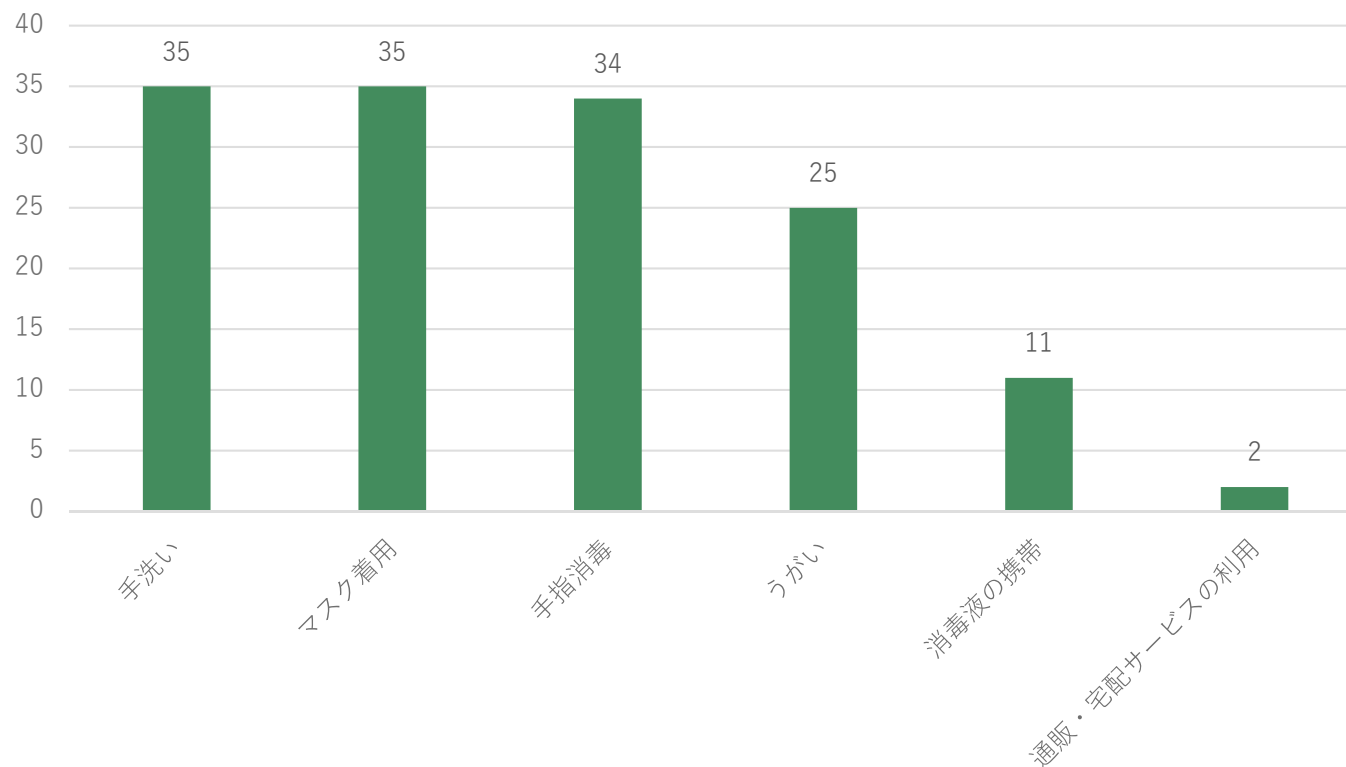


来場者アンケート同様、「手指消毒液の設置」「入場時の検温」の比率は高い。「入場確認票の記入」については比率が低く、主催者として「なぜ必要なのか」「こういった用途で重要なのか」の啓発は今後のイベント開催において重要なことが読み取れる。

■運営スタッフ向けアンケート <アンケート回答結果>

設問4：  
あなたが普段からしている感染防止対策を教えてください。（複数回答可）

N=142



普段はどのような対策をしているかの動向調査。

「手洗い」「マスク着用」「手指消毒」「うがい」などは基本的にも実施しているようであり、「消毒液の携帯」まで実施している方は割合として低くなる。

イベントを通じて今後どのような対策を啓発していくか、専門家の知見も踏まえ指針を作っていくことが重要であると考えます。

### ■運営スタッフ向けアンケート <アンケート回答結果>

設問5：

今回のイベントの対策であってよかったもの、あったらいいと思ったものを教えてください。

- お休み場にテント1~2台（雨でも快晴でも使える様に透明で）後ろは見えないテントにしてほしかったです。ごみの案内板、パスカードは胸にバッチにしてほしかった。鍋にからんで危険がいっぱいでした。秋ですから3時まで！土曜もステージ使って下さい。
- コロナで何もかも中止になっているなか感染対策を皆でやってイベントできると楽しみがありとても良い
- 雨対策、飲食スペースの場所にもテントがあると良かった
- 手洗い場
- 入口が混雑していたから、サーモカメラで体温確認しても良かったと思う。
- 平日の10:00~16:00はあまり効果が無かったように思いました
- テーブルのパーテーションはよかった。対面で座ることができ、たくさんの人が座れる。
- アクリル仕切り板
- あってよかったもの：googleフォームでの入場登録/飲食テーブルの飛沫防止パネル。
- 再入場含めた入場時の徹底した検温は今後のすべてのイベントでも行って欲しい。
- 入場の際、サーモカメラがあった方が入場がしやすいと思った
- 入場手続きによって必然的に入場制限となり、来場者もゆったりと安心して楽しむことができた実感。
- 入場制限を設けてしっかり履行されていたこと
- 飲食テーブルの飛沫防止アクリルスタンド
- 入場制限
- コロナ対策としては必要十分だと感じました。一方で入場まで30分以上かかることになり、弊団体を懇意にしてくださっているお客様がSNS等での告知をみて会場近くまで来てくださったのですが、並ぶだけの時間をとれず帰られてしまったという声が2日間で6件ほどありました。コロナ対策のため今回は致し方ないですが、何かより良い方法を編み出していけると良いなと思います。
- テーブルごとの消毒液の設置

# (6) 収支面について

## ■収入

項目	決算額	内訳
出店料収入	1,267,900	(1) 出店料 60,000円×15店舗 900,000
		(2) 協賛出展料 100,000円×3小間 300,000
		(3) オプション備品申込み 67,900円 67,900
補助金交付申請額	6,000,000	
主催者負担金	1,734,570	
合計	9,002,470	

## ■支出

項目	決算額	内訳	通常イベントで必要となる経費	感染症対策のための追加経費
感染予防対策関連経費	686,950	(1) 検温テント、再検温テント		51,590
		(2) カラーコーン・パー30組		26,400
		(3) 非接触体温計5台、電子体温計1台		21,230
		(4) 消毒備品 ・除菌シート 1式 ・手指消毒液 24本 ・スプレー消毒液 10本 ・使い捨てダスター 1式 ・ニトリルゴム手袋 1式		66,880
		(5) 飛沫感染防止消耗品 ・マスク 1,000枚 ・フェイスシールド 100枚 ・マウスシールド 50枚 ・マイクシールド 40枚		130,900
		(6) テーブル・イス・数取りカウンター		12,100
		(7) 仮設手洗器		17,600
		(8) 区画用イレクターフェンス 100枚		220,000
		(9) 休憩テーブル用飛沫感染防止パネル 30式		132,000
		(10) 感染防止啓発POP 30枚		8,250
イベント運営関連経費	957,000	(1) 企画関連経費 ・企画制作費 ・資料作成、各種申請費 ・運営マニュアル、進行台本作成費	352,000	
		(2) デザイン制作・広報経費 ・デザイン制作費 ・WEB広報費 ・プレスリリース作成 ・チラシ印刷、設置費 ・ラジオ番組広報費	605,000	
運営スタッフ人件費	1,301,300	(1) 本部・運営統括 ・統括責任者 1名×3日 ・運営統括ディレクター 1名×2.5日 ・運営ディレクター 1名×2.5日 ・運営AD 1名×2.5日	443,300	
		(2) インフォメーションスタッフ 2名	42,900	
		(3) 入場口・出口スタッフ 16名	343,200	
		(4) エコステーションスタッフ 6名	128,700	
		(5) ステージ進行関連 ・進行ディレクター 1名×2日 ・進行AD 1名×2日 ・音響スタッフ 2名×2日	266,200	
		(6) 看護師 1名×2日	77,000	

警備費	590,700	(1) 警備費 ・警備責任者 1名 ・警備員 8名 ・夜間警備 4名 (2) 警備費(追加) 3名 (3) 警備機材費、警備計画費	418,000	79,200	93,500
会場設営関連経費	4,153,270	(1) ステージテント、ブーステント (2) 音響一式、出演者関連備品 (3) テーブル・椅子 (4) その他備品 ・救護所備品 ・エコステーション備品 ・消火器 など (5) 設営撤去人件費・設営用機材・機材運搬費 (6) 発電機、投光器、運搬費、電気工事費	839,410	244,640	288,200
看板製作費	447,150	(1) ステージ吊り看板 1枚 ステージスケジュール看板 2枚 (2) 会場案内図 3枚 (3) 会場案内図 追加分3枚 (4) ブースサイン 26枚 (5) 誘導案内看板 5枚 (6) プラカード 3枚 (7) 案内POP	103,400	66,000	71,500
諸経費	866,100	(1) 事務局費 (2) ごみ処理費 (3) 報告書作成費 (4) コロナ対策アンケート作成・効果検証費 (5) 会場使用料 (6) イベント保険	330,000	55,000	110,000
合計	9,002,470		7,423,420	1,579,050	

## (6) 収支面について

### ■予算設定について新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて工夫したこと・苦慮したこと

#### (1) 収入

- ・感染症対策のため、来場者動線を広く確保する必要があり、出店者数を3割程度減らさざるを得なかった。出店料収入が減少した。
- ・東北地方では仙台の感染者数が多いため、他県（特に青森・秋田）からの出店を断念される団体が多かった。
- ・新型コロナウイルスによる売上や収入減少により、出店を断念される団体が多く見られた。

#### (2) 支出

- ・会場設営について、会場を囲むフェンスなど感染症対策費用として、686,950円と多額の費用が生じた。
- ・入退場管理スタッフとして延べ16名を配置するため、人件費がコロナ前と比べ3割程度増加した。
- ・看板製作費として、コロナ前と比べ8割程度増加した。

### ■イベントを終えての収支面での課題など（感染症対策の過不足等について）

#### (1) 収入

- ・入場管理をすることによる来場者の減少を懸念し出店を断念する団体が多いため、出店料と来場想定人数のバランスを検討することが重要である。

#### (2) 支出

- ・来場者用の仮設手洗器を準備したが、会場エリアを広げることで既設の水道が使用できるため、費用を投じて設置の必要性はなかった。
- ・感染防止対策啓発用の看板は会場内に適宜設置してもよかった。今回の規模であれば5～6枚程度は設置したほうがよい。
- ・休憩スペースに屋根をつければ雨天対策になるが、今回はテント内に座席を詰め込むことによる密発生を回避するために設置しなかった。テント内を透明横幕などで区切る対応で、座席を詰めることも可能であったが、風通しが悪くなるという懸念もある。
- ・会場のフェンス外側で立見などが発生しないよう警備員を配置したが、会場内にもステージ側には立見が発生しないよう警備員を2名程度配置を検討してもいいか考える。

## (6) 収支面について

### ■本イベントにおいて実施した費用が発生しない（あるいは少額の費用で実施できる）感染症対策

- ・あらかじめ定めたスタッフのみが、マイクの消毒を除菌シートにて行うこととし、不特定多数のスタッフがマイク等のステージ備品に触れることのないようにした。除菌シートと従事スタッフのゴム手袋のみの少額で実施可能。
- ・テントのレイアウトを最大5ブースまでとし、限られたスペースの中で極力密にならないようレイアウトした。
- ・関係者には事前に、37.5℃以上の発熱や体調の悪い時にはイベント参加を自粛いただくよう周知した。
- ・出店者全員が受付および検温を会場にて実施いただけるよう、スタッフパスは当日本部にて配布とした。
- ・飲食スペースが限られていることもあり、なるべく持ち帰りのできるもので飲食提供いただくよう協力依頼した。

### ■収支面についての総括

コロナ禍の影響で本業が売上面・人的理由から圧迫されており、イベント出店する余裕がないという団体が多く、出店者集めは苦慮した。来場人数を制限する関係で総来場者数はBeforeコロナのイベントよりも少なくなってしまう、出店者の売上に直接影響を与えることは容易に想像できるが、主催者としてはコロナ対策費用が余計にかかってしまうため、イベント収入である出店料の設定は非常に難しかった。

出店を断る理由として多かったのは以下の通り。

- ・仙台は感染者が多いので、現状ではイベント出店に仙台へ行くことができない。
- ・本業の業績が落ち込んでいるので、出店料を払ってのイベント参加は難しい。
- ・本年度はPRなどに回す予算を設定していない。
- ・本年度はイベント開催が非常に少ないため、イベント出店にあたるスタッフの確保ができない。

感染防止対策として必要と思われるフェンスやカラーコーンなどの規制備品は会場にて貸出などの対応が可能であれば、イベント主催者の負担は少なからず減少すると考える。

また、感染防止を啓発するPOPやサインの製作に関しても、イベントとしてどのような対策をし、来場者はどのような行動を取ればいいのかなど、具体的な指針がこの事業の検証を通じて周知されることで、イベント主催者はやみくもに周知を実施するのではなく、必要最低限の費用と対策にて開催が可能になると考える。



## (7) 全体総括

### ■イベント全体について

- ・コロナ禍で開催されるイベントということもあり注目度は高く、多くの方にご来場いただけたと感じる。特段大きな事故やトラブルはなく、特に11月3日は天候にも恵まれ終日入場待機列が途切れなかった。

### ■会場内について

- ・入場コントロールが必要なため、会場をフェンスで区切った会場レイアウトとなった。**今回は入場スピードと会場キャパのバランスが良く**、11月3日は常時概ね80%程度の収容率だった。
- ・飲食用テーブルにアクリルパネルを設置したことにより、**別グループの方とも対面で座ることができるようになり**、限られた数量の中で省スペース化が図れた。
- ・エコステーションと出口の混雑を防ぐため別々の場所に設置したが、出口からエコステーションへ引き返す方が散見されたため、出口付近への設置が望ましかったと考える。
- ・来場者から「足元へのソーシャルディスタンス表示がない」との指摘をいただいた。今回の会場である市民広場は劣化したインターロッキングであり、屋内施設とは違い凹凸が激しく、**多くの来場者が通過することで貼り付けた表示が剥がれてしまうことが懸念される**。
- ・飲食スペースが一時的に不足した時間帯もあった。今回のイベント規模を鑑みると、立食スペースなどの設置により対策できたものと思われる。

### ■会場レイアウトについて

- ・一般の来場導線確保のため会場内スペースを区切ったが、特にステージ前においては観覧エリアが狭くなり、結果として席を詰めて座る方や立ち見の方が散見された。ステージ前に無料の観覧席を設けたが、当該区画の利用者については本体区画の利用者と異なり、現地での体調検査を実施していなかった。飲食スペースに不足感があったことを踏まえれば、ステージでの催しを企画する場合には、無料の観覧席を設けることなく、本体区画を拡張するとともに、横断通路の確保についても、主催者側のコロナ対策を踏まえて柔軟に対処できるようにした方がよいと思う。
- ・今回、市役所前広場の議会側駐車場を関係者駐車場およびドライブスルー混雑時の退避エリアとして借用したが、コロナ禍でのイベント開催はスペースに限りがありレイアウトに苦慮することもあり、**出演者・運営スタッフ・警備控えなど関係者の待機エリア**として借用できれば、会場内スペースを広く使うことができるとともに、関係者同士の感染対策にも繋がると考える。
- ・市役所前広場の活用について、当該スペースは敷地内に進入できる場所が限られており、**3箇所を塞ぐだけでコントロールできる運用面・費用面とも非常に有効な作りになっている**。庁舎前のロータリーに加え、噴水周辺のエリアもあり、スペースが割と広いことに加え、**来場者動線が読みやすい設計**となっていることに気づいた。

## (7) 全体総括

### ■入場時体制について

- ・ Beforeコロナのイベントと大きく違う点として「入場時の検温」「入場確認票・入場確認フォームの記入・入力」という行程が発生している。今回は入場レーンを2レーンで実施し、11月3日については常時30分程度の待ち時間が発生した。**入場レーンを増やせば場内への入場スピードは上がるが、会場収容数の上限に達する状況が生じてしまう。**今回の会場キャパを鑑みると、Route227s'cafe側のエリアを入場待機列にうまく使うことができたことから**入場レーンは2レーンが最適であった**と考える。
- ・ 今回は「屋外モデルイベントの確立」を目的としていることから、**比較的小規模なイベント主催者でも実施可能なモデル作り**を意識し、高価なサーマルカメラなどの導入は行わなかった。結果として、前述の通り適度な入場スピード確保ができた。
- ・ 入場時検温による再検温者は両日ともにゼロだった。
- ・ 入場フォームへあらかじめ入力いただくためにスタッフによる声かけを適宜実施したが、QRコード自体の使い方を理解していない方も多数見受けられた。今回はPOPのみでのご案内を実施したが、大きめの立看板などで使い方を含めたご案内がより親切でスムーズな運営につながると考える。

### ■ドライブスルーマルシェについて

- ・ 申込数は30個、申込時に希望受取時間を選択していただいたことで**公道での渋滞発生はなかった。**
- ・ あらかじめ申し込みされていることで販売側も体制が作りやすく、人員配置の面でも最小限の人員・費用で実施できる**Afterコロナでも有効な実施スタイル**であると考え。
- ・ タクシーで来場、購入した方もいらした。コロナ禍においてタクシーでのデリバリーサービスなどが生まれている中、逆の発想としてイベントとタクシー会社との連携により、「イベント来場の帰りにタクシーでドライブスルーマルシェ経由で帰宅する」など、**新しいイベントの楽しみ方の可能性**があると感じた。
- ・ 市役所前広場のロータリーの形状はこういった取り組みに適していることが実証され、都市型ドライブスルーの実証実験としては**申込方法・場所の選定計画により大いに可能性**があるという結果となった。

### ■ステージについて

- ・ コロナ禍で出演機会を失ってしまった市民団体を中心にステージを展開した。**市民の手による賑わい創出**を狙いとして実施したが、出演者・観覧者ともに楽しんで参加いただけただけの様子で当初の目的は達成できたと考え。
- ・ 観客席をステージとの間に距離を設けて設置した。出演者と観覧者のソーシャルディスタンスは概ね保たれていたように見られるが、一部のステージにおいて、出演者が観覧席の目前で演奏する場面もあった。また、イベント以外の一般通行者動線の確保などの条件により限られたスペースでの観覧席設置となるため、一時的に立ち見が発生した時間帯もあった。ステージはオープン開催しているため、座席に座っていない方を制限することは難しく、**コロナ禍におけるステージイベントの開催にあたっては、入念な検討と対策が必要**である。